

企画提案シート

企画名称	静岡市地域センパイ制度
現状・背景	・中高生が出会い、話ができる大人に限られている ・地域における世代間交流の減少
なぜ、必要なのか？	年上の人と話すことで新たな価値観や考えが身につく、多様な視点から自己の将来を見つめる機会ともなる。自分の悩み事を経験して来た年上の人に相談できる。同じ町に住む人は安心感が増すのではないか。また中高生が地域との繋がりをもち、様々なセンパイと触れることにより、地域・地域の人への愛着が生まれる。これは地域コミュニティの再生の契機にもなる。
市民ニーズはあるか？	静岡市内で実施したアンケートの結果によると86.7%の人が年上の人と話す経験は意味のあるものであると回答している。(有効回答数83,うち10~20代は50)また、自由記述欄にもそういった機会が増えることを歓迎するニュアンスの言葉が多く並んでいた。加えて、年上ならば誰でもいいというわけではないという懸念もあるが、その安心感の担保といった点でも市が行う意義はあると考える。
目的	若者が自分の住んでるまちに相談できるセンパイがいること
ターゲットは？	静岡に住む人生のセンパイと話したいわかも / 近い人には言いにくい悩みがあるわかも
ターゲットはどんな欲求を持っているか？	中高生のうち、最大の悩み事について「相談している人はいない」という高校生は41%、中学生は16%に上る。また、若者の地域活動に「参加している」「時々している」者の割合は男性20%、女性9%である。これは他の年代と比べて極端に参加が少ない。地域活動に参加しない理由として「参加の仕方がわからない」と答えた者の割合は若い世代ほど多い。(男性33.0% 女性41.1%) このことから、地域活動への参加は少ないが、それは参加の仕方が分からないからであって、参加しやすくする工夫をすれば、若者の地域活動等への参加は増える余地があると考えられる。地域活動への参加を働きかけることにより、新たな交流が生まれ、相談相手も見つかるのではないかと考える。
手法	若者が提案したテーマをもとにセンパイを交えてトークをする。
競合は？市の役割は？	若者の要望を聞き入れ、それに見合うセンパイを公募する。そのときに、基本的には誰でも参加可能だが不適切な動機で参加しようとする人を参加させないようにする役割ももつ。またOB・OG会の会場の提供や会の開催の広報をする。こういった実際の運営といった点は市が直接行うのではなく、委託団体が行うというやり方も検討するべきだと思う。
どの程度実施するか？	2か月に1度。状況によって変更する変更する余地は大いにある。
経費は？	
成果指標	アンケート
どのようにして計るか？	参加者の満足度。参加する前と後での変化を見る。
目標は？	気軽に話せるセンパイがいると感じる若者の割合が過半数を超える。